



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/26 (月)	▲ 100	+ 9,000	+ 8,900	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 300 社債等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 31,500	国債買入 + 16,800	日: 金融政策決定会合における主な意見 (6月15・16日分)
6/27 (火)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000				米: 消費者信頼感指数 (6月)
6/28 (水)	トン	▲ 15,000	▲ 15,000	国債発行 (20年)			
6/29 (木)	▲ 800	+ 3,000	+ 2,200				米: GDP (1Q) 米: 新規失業保険申請件数 (6月24日終了週) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (6月)
6/30 (金)	▲ 2,200	+ 3,300	+ 1,100		新型コロナ企業支援 ▲ 51,900		日: 鉱工業生産 (5月) 米: ミシガン大学消費者マインド指数 (6月) 欧: ユーロ圏CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初19日は貸出増加支援オペなどを主因に、前営業日対比2兆3,700億円増加の544兆7,600億円から始まり、翌20日には国債大量償還などを主因に増加し551兆9,500億円となった。その後は横ばい圏で推移し、週末となる23日には国債発行を主因に減少し、550兆2,100億円 (速報) で越過となった。

無担保コールON物は週を通して軟調な地合となった。同加重平均金利は週初▲0.061%から始まったものの、その後は調達意欲の減退から低下基調を辿り、週末となる23日には▲0.074%(速報) となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.075%~▲0.060%程度の広い水準で出合が見られた。

来週の予定は、国内では、26日に金融政策決定会合における主な意見 (6月15・16日分)、30日に鉱工業生産 (5月) の公表などがあり、海外では29日に米国GDP (1Q)、30日にユーロ圏CPI (6月) の公表がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.020 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<レポ>

足許GCは週初▲0.09%から出合い始め、週を通して▲0.095%~▲0.085%の狭いレンジで推移した。短国3mの入札があった23日の取引では▲0.08%近辺の出合いが中心となった。

SC取引は2年438~449回債、5年149~158回債、10年350~370回債、20年180~184回債、30年65~78回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約8,200億円で、週間償還額 (約4,300億円) を上回った。発行市場は、化学や卸売、石油製品等の複数業態で大型案件が見られ、発行超となった。発行残高は前週末の26兆1,388億円から22日時点で26兆5,254億円と増加した。発行レートは一部マイナス圏での発行も見られ、概ね0%から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (約3兆5,000億円) を含み、約4兆3,500億円となっている。発行市場は、月末スタートが大幅な償還超となる見通しで、月初スタートの発行再開が見込まれる。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となることを予想する。27日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

19日の1Y (1164回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1284% (前回債▲0.1251%)、平均落札利回り▲0.1294% (前回債▲0.1371%) となった。23日の3M (1165回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1142% (前回債▲0.1308%)、平均落札利回り▲0.1315% (前回債▲0.1526%) となり、前回債より0.020%程度上昇した。来週は30日に3Mの入札が予定されている。